

# 2026年3月期 決算補足説明資料



2026年5月15日  
品川リフラ株式会社

# INDEX

1. 連結業績ハイライト
2. EBITDA・営業利益の増減要因
3. 特別損益の内容 ①固定資産の譲渡
4. 特別損益の内容 ②減損損失の計上
5. セグメント別売上高およびEBITDA
6. セグメント別概況 ①耐火物セクター
7. セグメント別概況 ②断熱材セクター
8. セグメント別概況 ③先端機材セクター
9. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
10. 地域別の売上高
11. 2027年3月期の通期業績見通し
12. 2027年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）
13. 配当について（配当方針の変更）
14. トピック（瀬戸内工場の稼働開始）

# 1. 連結業績ハイライト

(単位：億円)

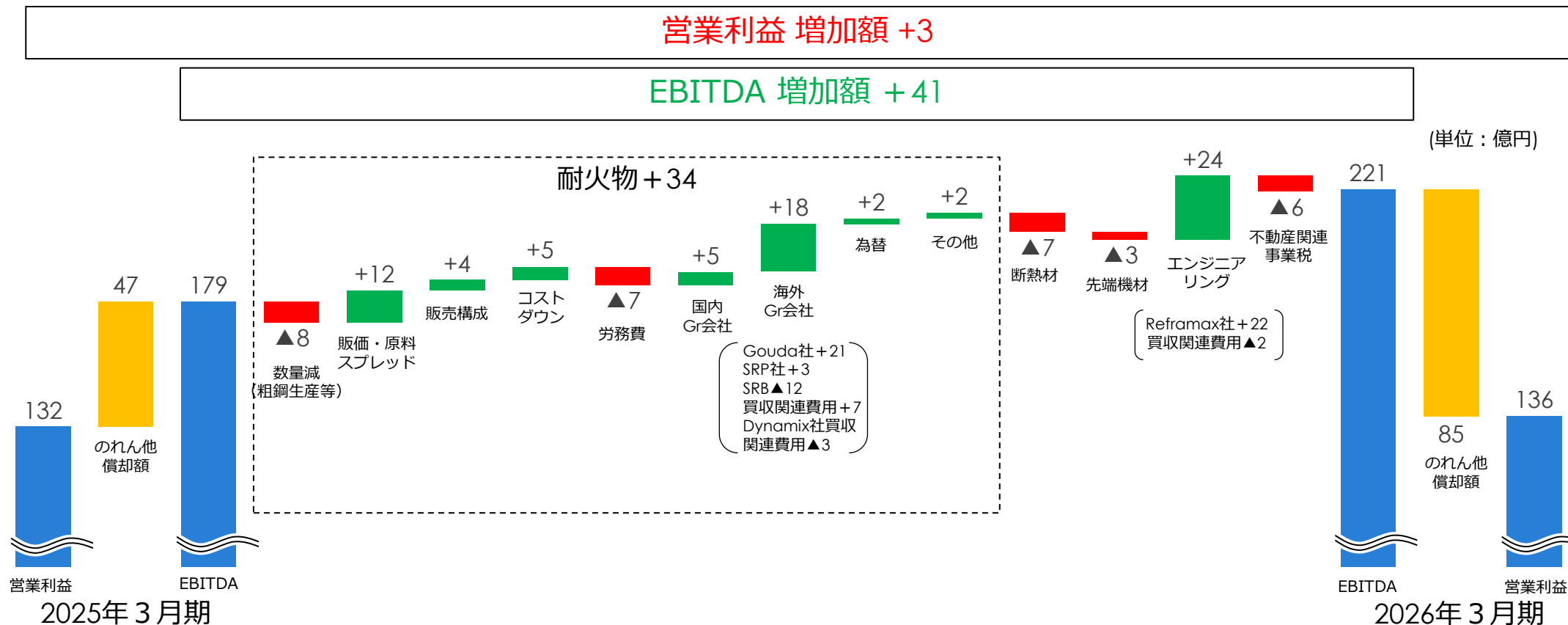
	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年同期比
売上高	1,440	<b>1,777</b>	+336 (+23.4%)
EBITDA	179	<b>221</b>	+41 (+23.3%)
営業利益	132	<b>136</b>	+3 (+2.5%)
経常利益	136	<b>159</b>	+23 (+17.1%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	97	<b>260</b>	+162 (+166.6%)
<指標> EBITDAマージン	12.5%	<b>12.5%</b>	±0.0pt
ROS (営業利益率)	9.2%	<b>7.7%</b>	▲1.6pt
ROIC	7.2%	<b>6.4%</b>	▲0.8pt
DEBT/EBITDA倍率	2.0倍	<b>0.8倍</b>	▲1.2pt

注1：前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様

注2：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2026年3月期 通期の国内粗鋼生産量は、前年同期比3.2%減の8,033万トンとなり、低迷が継続。
- 売上高は、耐火物セクターについて国内粗鋼生産量の減少に加え、海外においても一部の顧客の活動水準が低位で推移したことから販売数量が減少。断熱材・先端機材セクターについても、需要環境の低迷を受け減収。一方で、新たに当社グループに加わったオランダのGouda Refractories Group B.V. (以下、Gouda社) およびブラジルのReframax Engenharia S.A. (以下、Reframax社) の業績寄与により、全体では大幅な増収を確保。
- 損益面では、Reframax社およびDynamix Casting Fluxes, LLC (以下、Dynamix社) の買収に伴う一過性費用を計上したものの、売上高と同様、海外子会社2社の業績寄与に加え、高付加価値製品を中心とした国内外の拡販活動等により、EBITDAは大幅な増益。M&Aに伴うのれん償却額の増加や、赤穂工場の新プラント稼働に伴う減価償却費の増加があったものの、営業利益は若干の増益。為替差益の影響により、経常利益は増益幅が拡大。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、赤穂工場および海外子会社2社における減損損失があったが、固定資産売却益を計上したことから、大幅な増益。

## 2. EBITDA・営業利益の増減要因



- EBITDAは+41億円の増益。耐火物セクターは、販売数量の減少があったが、価格設定の適正化や販売構成の改善、継続的なコストダウンに加え、Gouda社の業績寄与により増益。断熱材・先端機材セクターは、需要環境の低迷により減益。エンジニアリングセクターは、一過性の買収関連費用の計上があったが、第2四半期からのReframax社の業績寄与により大幅な増益。
- 営業利益は、のれん他償却額の増加があったものの+3億円の増益を確保。

### 3. 特別損益の内容 ① 固定資産の譲渡

#### ■ 固定資産の譲渡

- 2025年度、当社は有利子負債の返済による財務体質の強化と持続的な成長に向けた投資資金の確保を目的に、以下の固定資産の譲渡を行いました。

資産の内容	所在地	用途	譲渡益	契約締結月
土地	神奈川県座間市小松原	賃貸土地	46億円	2025年12月
土地・建物	東京都渋谷区神宮前	賃貸不動産	286億円	2025年12月
土地・建物	東京都世田谷区千歳台	賃貸不動産	10億円	2026年3月
土地・建物	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷	賃貸不動産	13億円	2026年3月
その他	—	—	14億円	—

- 2026年3月期決算において**特別利益**として計上。



**譲渡益合計：372億円**

# 4.特別損益の内容 ②減損損失の計上

## ■ 減損損失の計上

- 2025年度、当社グループは以下の案件について、減損損失を計上しました。

案件	背景・理由	損失金額	今後の対応
赤穂工場	<ul style="list-style-type: none"><li>国内粗鋼生産量の減少を主因として国内耐火物の事業環境が想定より大幅に悪化</li><li>足元の事業環境を踏まえ、事業計画を保守的に見直し、将来の収益性を再評価</li><li>但し、営業キャッシュフローは黒字を維持</li></ul>	43億円	<ul style="list-style-type: none"><li>拡販活動の強化による稼働率の拡大</li><li>オペレーションの効率化によるコストダウンの徹底</li></ul>
SRB	<ul style="list-style-type: none"><li>安価な中国鋼材がブラジルに流入し、主要顧客の操業度が低下</li><li>耐火物需要の減少を織り込み、収益性を慎重に見直し</li><li>但し、輸入鋼材抑制の動きを背景に、市場環境は徐々に安定化に向かう見込み</li></ul>	38億円	<ul style="list-style-type: none"><li>ブラジル国外および鉄鋼業界以外への事業展開強化</li><li>グローバルなグループ間連携の一層の推進による収益力の向上</li></ul>
Reframax	<ul style="list-style-type: none"><li>SRB社と同様、ブラジル鉄鋼業界の事業環境悪化の影響</li><li>国際財務報告基準（IFRS）に基づくのれんの年次減損テストを実施</li></ul>	14億円	<ul style="list-style-type: none"><li>米州市場での鉄鋼業界以外への事業展開強化</li><li>耐火物・断熱材事業との協業を通じたグループ横断での付加価値創出</li></ul>

- 2026年3月期決算において**特別損失**として計上。



**減損損失合計：97億円**

# 5. セグメント別売上高およびEBITDA

(単位：億円)

		2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年同期比	
耐火物	売上高	958	<b>1,109</b>	+150	(+15.7%)
	EBITDA	110	<b>144</b>	+34	(+31.0%)
断熱材	売上高	187	<b>177</b>	▲10	(▲5.7%)
	EBITDA	40	<b>32</b>	▲7	(▲18.4%)
先端機材	売上高	43	<b>41</b>	▲2	(▲5.5%)
	EBITDA	3	<b>1</b>	▲2	(▲73.1%)
エンジニアリング	売上高	257	<b>458</b>	+201	(+78.2%)
	EBITDA	17	<b>41</b>	+23	(+132.4%)
その他（不動産）	売上高	9	<b>7</b>	▲1	(▲16.7%)
	EBITDA	6	<b>0</b>	▲6	(▲91.2%)
合計	売上高	1,440	<b>1,777</b>	+336	(+23.4%)
	EBITDA	179	<b>221</b>	+41	(+23.3%)

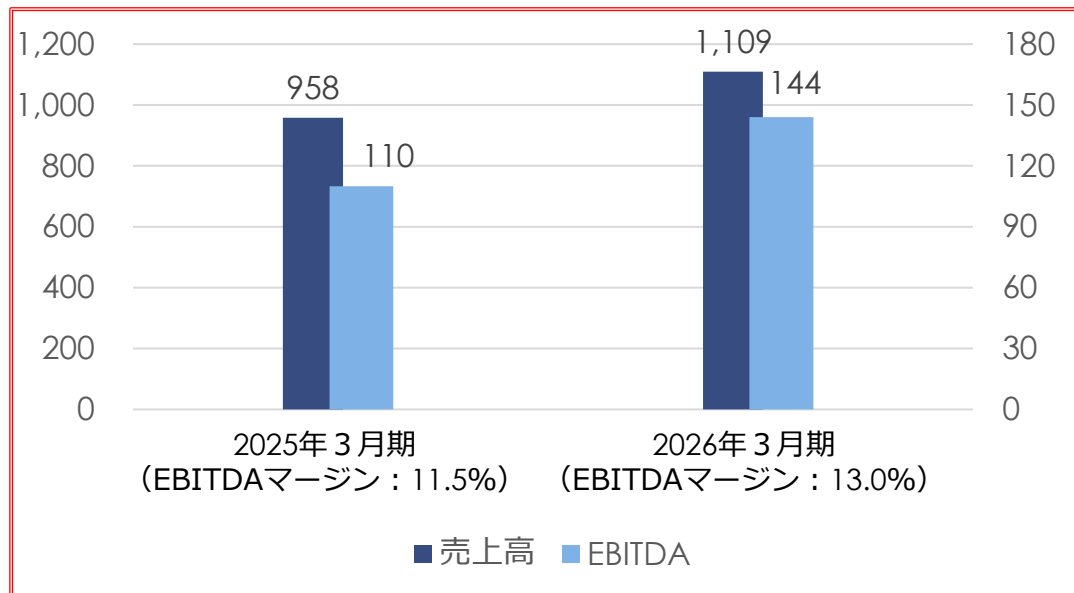
注：合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

# 6. セグメント別概況 ①耐火物セクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比	
売上高	958	<b>1,109</b>	+150	(+15.7%)
EBITDA	110	<b>144</b>	+34	(+31.0%)
営業利益	76	<b>85</b>	+8	(+11.5%)
EBITDAマージン	11.5%	<b>13.0%</b>	-	(+1.5Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### <通期業績について>

- ▶ 国内粗鋼生産量の減少に加え、海外でも一部のお客様の活動水準が低位で推移したことから販売数量が減少
- ▶ 一方で、2024年10月に買収したGouda社の業績が通期で寄与し、大幅な増収を確保
- ▶ Gouda社の業績寄与に加えて、高付加価値製品を中心とした国内外への拡販活動、価格設定の適正化、販売構成の改善、継続的なコストダウン等を進めた結果、EBITDA・営業利益ともに増益

### <今後の課題>

- ▶ グローバルネットワークを活かした拡販のさらなる推進
- ▶ モールドフラックス事業のグローバル体制強化
- ▶ 連続鑄造用機能性耐火物における中国生産拠点の確立およびグローバル販売体制の強化
- ▶ 国内の非鉄・工業炉分野におけるシェア拡大の加速
- ▶ カーボンニュートラルへの取り組みの一環であるGREEN REFRACTORY<sup>※</sup>の市場浸透
- ▶ 生産プロセスの効率化および原材料・資材の調達最適化によるコストダウンの徹底

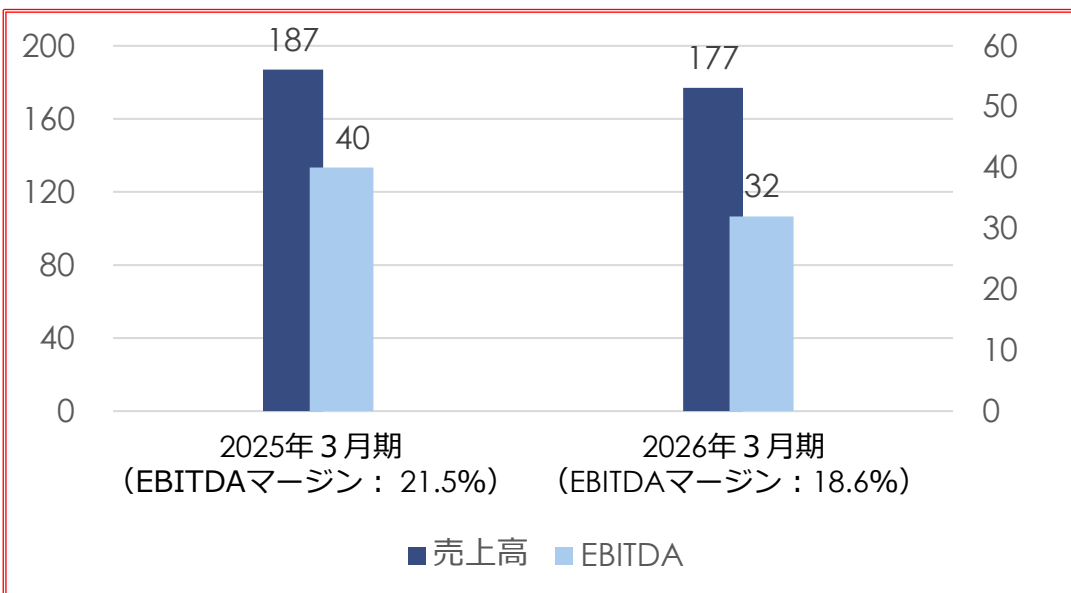
※ GREEN REFRACTORY：使用後耐火物などCO2排出量を実質ゼロと見做せる原料を20%以上活用した製品、およびお客様の使用現場における熱ロス低減製品

# 7. セグメント別概況 ②断熱材セクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比
売上高	187	177	▲10 (▲5.7%)
EBITDA	40	32	▲7 (▲18.4%)
営業利益	32	24	▲7 (▲24.1%)
EBITDAマージン	21.5%	18.6%	- (▲2.9Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### ＜通期業績について＞

- ▶ 国内外で受注拡大を進めたものの、国内改修案件の一時的な減少や、半導体製造装置およびリチウムイオン電池向けを中心とした高付加価値製品市場における断熱材需要の回復遅れの影響により、減収・減益

### ＜今後の課題＞

- ▶ 成長市場向け製品の開発強化および需要の捕捉（半導体製造装置および電力・エネルギー関連設備向け等）
- ▶ 超断熱製品LTCシリーズ※の国内外市場への浸透（溶鋼処理炉・非鉄保持炉・工業炉等における熱ロスおよびCO<sub>2</sub>削減対策）
- ▶ 建築向け防火用・耐火断熱ファイバーの拡販
- ▶ 耐火物・エンジニアリングセクターとの協業による海外展開の加速（インド・中東および南米地域での鉄鋼・非鉄・石油化学プラント等への参入）

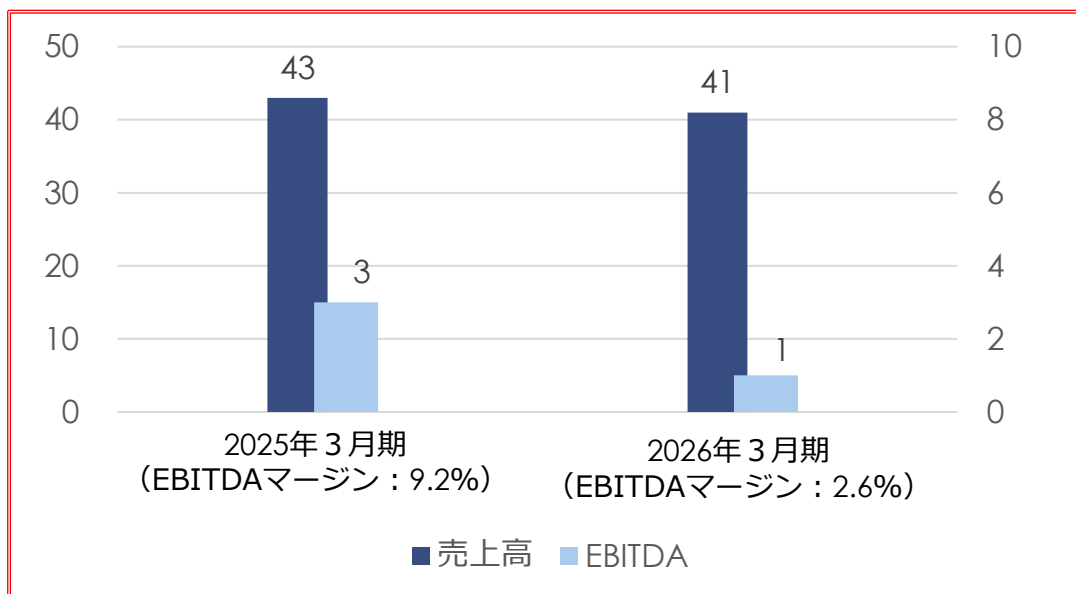
※ LTCシリーズ：マイクロポーラス構造により極めて高い断熱性能を発揮し、熱ロス防止に優れた製品

# 8. セグメント別概況 ③先端機材セクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比
売上高	43	41	▲2 (▲5.5%)
EBITDA	3	1	▲2 (▲73.1%)
営業利益	1	▲1	▲2 ( - %)
EBITDAマージン	9.2%	2.6%	- (▲6.6Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### <通期業績について>

- ▶ ファインセラミックス製品の拡販を進めたものの、□ジック半導体およびファウンドリー関連の投資時期変更に加え、顧客における在庫調整の影響を受け、半導体製造装置関連製品の販売数量が減少し、減収・減益

### <今後の課題>

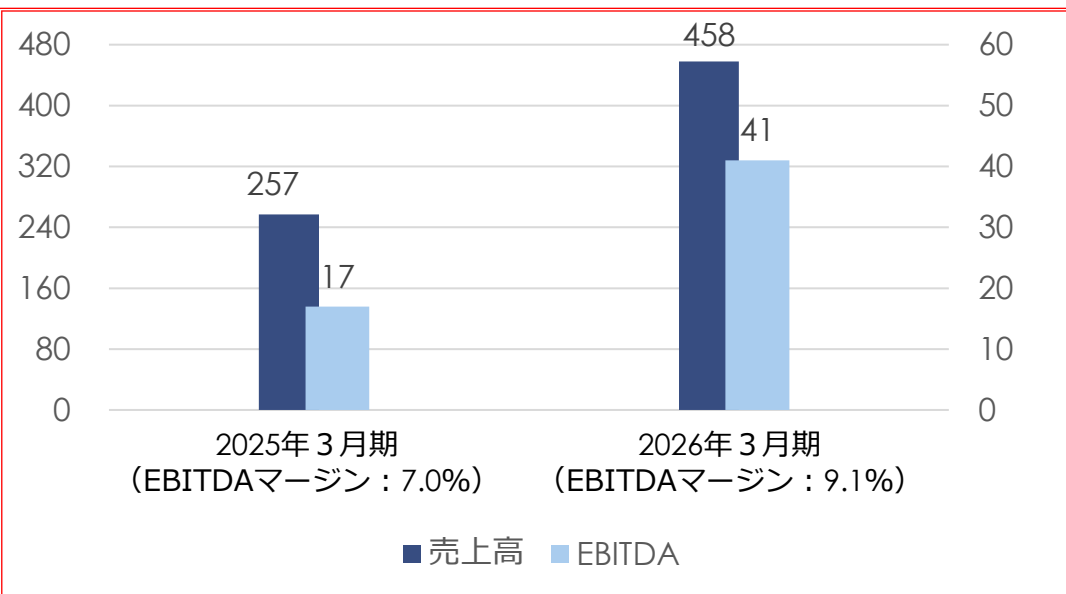
- ▶ 中長期的な成長が見込まれる半導体製造装置分野でのファインセラミックス製品の需要の捕捉と装置事業の領域拡大
- ▶ 各分野向け耐摩耗部材の製品開発強化および拡販
- ▶ 無機塗料・無機接着剤製品の販売強化
- ▶ 新工場の早期安定稼働および新規分野に向けた製品開発・拡販活動の強化

# 9. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比	
売上高	257	458	+201	(+78.2%)
EBITDA	17	41	+23	(+132.4%)
営業利益	16	27	+10	(+68.1%)
EBITDAマージン	7.0%	9.1%	-	(+2.1Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### <通期業績について>

- ▶新たに当社グループに加わったReframax社の業績が第2四半期より寄与し、売上高は大幅な増収、EBITDAも増益
- ▶Reframax社買収に伴う一過性費用およびのれん償却額等の発生があったものの、営業利益も増益を確保

### <今後の課題>

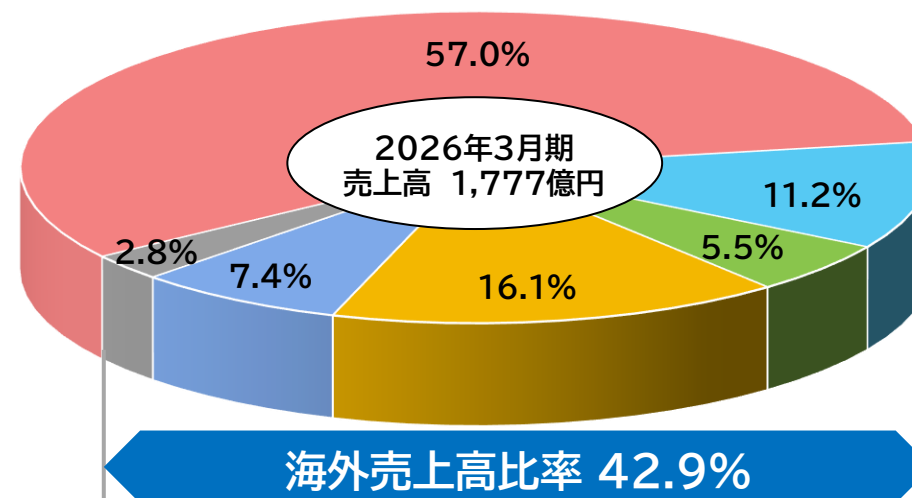
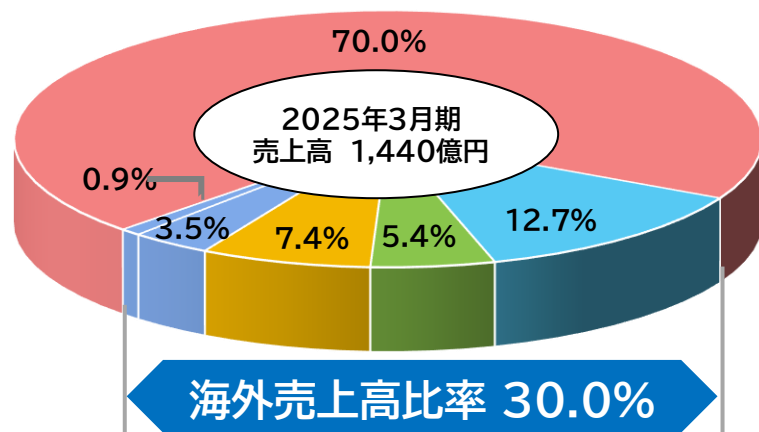
- ▶カーボンニュートラル建設工事案件（大型電気炉等）への確実な対応
- ▶大型建設炉案件（熱風炉改修等）の受注獲得
- ▶高度な技術を要する工業炉分野（カーボン焼成炉等）における受注拡大
- ▶新技術導入による築炉作業等の負荷軽減および効率化（ドローン活用等）
- ▶Reframax社との技術連携を通じたエンジニアリング事業の強化・拡大

# 10. 地域別の売上高

(単位: 億円)

	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比
日本	1,009 [ 70.0 ]	1,014 [ 57.0 ]	+0.5%
アジア・オセアニア	183 [ 12.7 ]	198 [ 11.2 ]	+8.5%
北米	77 [ 5.4 ]	96 [ 5.5 ]	+24.9%
南米	106 [ 7.4 ]	286 [ 16.1 ]	+169.0%
欧州	50 [ 3.5 ]	132 [ 7.4 ]	+159.1%
その他海外	13 [ 0.9 ]	49 [ 2.8 ]	+280.2%
海外計	431億円 (30.0%)	763億円 (42.9%)	
合計	1,440 [100.0]	1,777 [100.0]	+23.4%

注: [ ]内は、地域別の売上高構成比(%)



当期の海外売上高比率は、前年同期比で12.9ポイント上昇し43%となった。第2四半期よりブラジルのReframax社の業績が加わったことで南米地域の売上高が増加したほか、オランダのGouda社の業績寄与により、欧州およびその他海外地域も伸長。Reframax社の業績が通期で反映された場合、海外売上高比率は約45%に達する見込み。

# 11. 2027年3月期の通期業績見通し

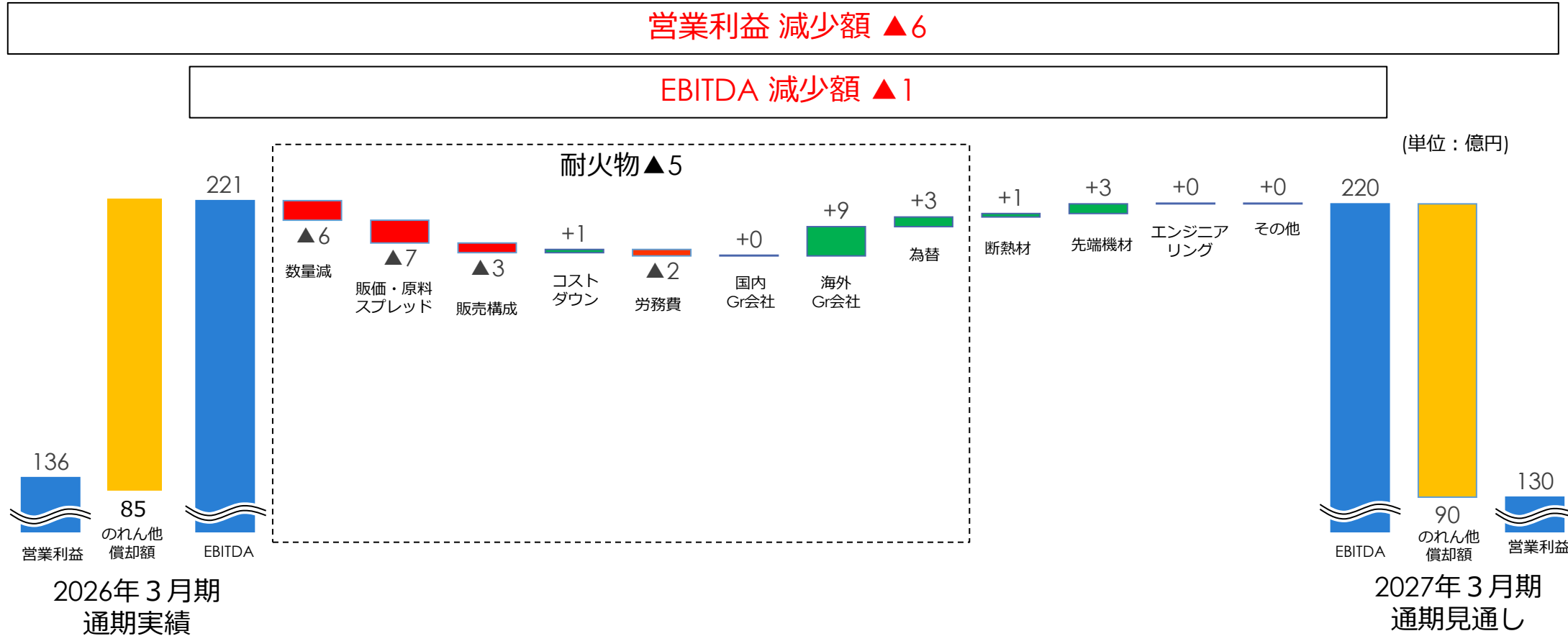
(単位：億円)

	2026年3月期 通期 実績	2027年3月期 通期 見通し	前年同期比
売上高	1,777	1,890	+112
EBITDA	221	220	▲1
営業利益	136	130	▲6
経常利益	159	130	▲29
親会社株主に帰属 する当期純利益	260	100	▲160
<指標> EBITDAマージン	12.5%	11.6%	▲0.9pt
ROS (営業利益率)	7.7%	6.9%	▲0.8pt

## <2027年3月期 通期見通し>

- 国際政治・経済における不安定な状況が継続することに加え、中東情勢に起因する石油由来の諸原材料の供給リスクが生じている。こうしたダウンサイド・リスクが一部顕在化することも想定し、保守的な前提のもとで見通しを検討。2027年3月期の国内粗鋼生産量は7,800万t（前年同期比2.9%減）を想定。
- このような厳しい前提条件においても確実に利益を確保すべく事業計画を策定しており、その着実な実行に取り組む方針。
- 厳しい事業環境が見込まれるものの、Reframax社の業績が通期で寄与すること、ならびに新たに加わったDynamix社の業績が寄与することから、売上高は増収の見通し。
- 中東情勢の影響によるエネルギー・原材料コストの上昇を織り込んでいものの、EBITDAは概ね横ばいを見込む。一方、営業利益については、のれん他償却額の増加により減益見通し。経常利益については、2026年3月期に為替差益が発生した一方で、2027年3月期はこれを織り込んでいないことから、減益幅が拡大する見通し。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は大幅な減益となるが、これは前期に計上した多額の固定資産売却益を2027年3月期には見込んでいないことが主因。

# 12. 2027年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）



全セクターにおけるグローバルネットワークを駆使した拡販や継続的なコストダウン等を推進するものの、国内粗鋼生産量の減少に加え、中東問題等に起因するエネルギー・原材料コストの上昇を織り込んだことから、EBITDAは前期比ほぼ横ばい（▲1億円の減益）、営業利益はのれん他償却額を勘案し、▲6億円の減益見通し。

# 13. 配当について（配当方針の変更）

## 【配当方針の変更】

2023年度まで 配当性向30%

2024年度～ 配当性向40%

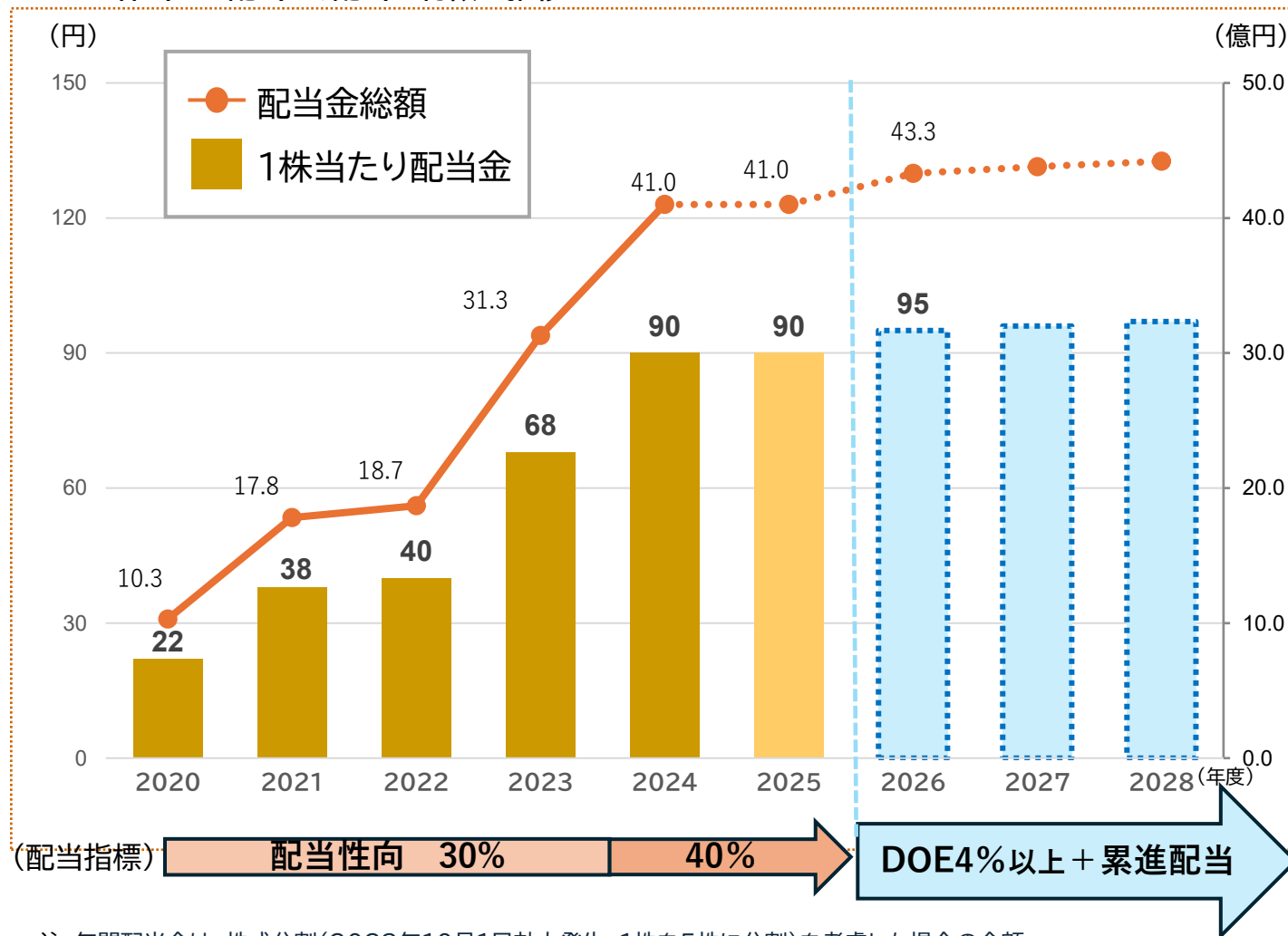
2026年度～ **株主資本配当率(DOE) 4%以上  
累進配当を実施**

- 近年は、積極的なM&Aの実施に伴うのれん償却額の増加や、成長資金の確保を目的とした資産売却等により当期利益が変動
- こうした環境下においても、2020年度以降、安定した配当を継続して実施
- 2026年度より、DOE4%以上を目標とし、累進配当を実施する方針に変更

株主コストを意識した経営をより一層推進し、  
安定的かつ持続的な株主還元を実現

2026年度の年間配当金(1株当たり)予想 **95円**

■1株当たり配当金、配当金総額の推移



注:年間配当金は、株式分割(2023年10月1日効力発生。1株を5株に分割)を考慮した場合の金額

# 14. トピック（瀬戸内工場の稼働開始）

## ■ 国内ファインセラミックス事業の新工場が稼働

- 当社は、先端機材セクターの中核を担う国内ファインセラミックス事業において、半導体製造装置産業をはじめ、今後需要拡大が見込まれる**先端産業分野向けにおける高精度加工品の生産・供給体制を強化**するため、新拠点となる**瀬戸内工場（岡山県瀬戸内市）**を設立し、2026年2月より稼働を開始しました。
- 当該工場では、自動化設備や、超微細加工が可能なGC（グラインディングセンタ）など最新設備の導入を積極的に進め、生産能力の向上と高精度加工品の安定供給を可能とする生産体制を構築していきます。
- 今後は、既存の備前工場（岡山県備前市）に当該工場を加えた2工場体制のもと、国内ファインセラミックス事業の強化と拡大を図っていきます。



・（左）瀬戸内工場全景（右）備前工場・瀬戸内工場所在地



・今年2月13日、瀬戸内工場の竣工式を挙行

## ご注意

本資料は、2026年3月期決算（2025年4月～2026年3月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2026年5月15日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。